



政策分析研究部会

1. 研究部会の発足ととり上げた話題

政策分析研究部会は昭和49年3月に正式に発足しましたが、その目的は次のとおりである。

「総合科学形成の有力な方向として注目されているポリシー・サイエンスについて研究し、科学的思考ないし分析を少しでも高い段階の意思決定に活かす方法を探る」。

昭和49年3月から11月まで、われわれは9回の研究会を開いてきた。そこでとり上げた話題と報告者は次のとおりである。

- 1-1 自己紹介（メンバー全員）
- 1-2 政策科学に関する二、三の内容紹介
（総合報告；防衛研修所 福島）
- 1-3 部会の今後の進め方（メンバー全員）
- 2-1 Policy Sciences “政策科学の必要”
（論文紹介；防衛研修所 福島）
- 2-2 経営科学 “政策科学の基礎”
（論文紹介；三菱電機 末内）
- 3-1 学際 “政策科学をめざすもの”
（総合報告；三菱総研 細貝）
- 3-2 学際 “政策科学の展開”
（総合報告；防衛庁 関）
- 4-1 NASA の長期計画と政策科学
（論文紹介；防衛大 今村）
- 5-1 生活の質（QOL）の測定と分析
（論文紹介；防衛大 今村）
- 5-2 経営科学 “OR 私観—価値観について”
（論文紹介；日立 鳥井）
- 6-1 テクノロジー・アセスメントの手法
（論文紹介；防衛大 今村）
- 6-2 官庁発注の研究テーマの傾向
（総合報告；ジャステック 富沢）
- 7-1 フランスの PPBS
（総合報告；新日鉄 矢部）

- 7-2 価値観の変化・70年代後半の社会環境
（総合報告；三菱総研 細貝）
- 8-1 生活の質の測定と分析（続き）
（論文紹介；防衛大 今村）
- 8-2 社会指標
（総合報告；防衛研修所 福島）
- 9-1 PPBS の再検討
（研究発表；中央大 亀山）
- 9-2 価値意識の理論
（総合報告；防衛研修所 福島）

2. 研究部会の運営

現在メンバーは30名である。部会は原則として毎月1回第3土曜日14：00～17：00の約3時間、大手町ビル3階の三菱総合研究所の会議室で開いている。1回に2テーマを約1時間で発表し、約30分討論を行なっている。3ヵ月先のテーマを選択し、合議の上発表者を決めている。

3. 研究テーマの再検討

メンバーの意見を反映させるために2回～7回まで研究発表のアンケート調査を行なった。18名の回答があり、その結果は次のとおりである。

(1) 研究発表でとくに興味のある(A)、聞かなかった中で興味のあるもの(B)。各二つ〇印

| | (A) | (B) |
|----------------|-----|-----|
| 4 長期計画と政策科学 | 6 | 2 |
| 5-1 生活の質の測定と分析 | 7 | 1 |
| 5-2 価値観について | 8 | 1 |
| 6-1 T. A. の手法 | 4 | 4 |
| 7-2 価値観の定量化 | | 5 |

(2) 政策科学の中で重要と思うものは1位は価値観の導入、2位は学問の総合化、3位は行動科学と経営科学の結合である。

(3) 今後やりたいことの順序は、1位は概念の把握と理解、2位は既存ケースの吸収消化、3位は部会としてのケースの実施である。

(細貝)